

# 気象研究所での気候変動研究概要

○蒲地政文(気象研究所研究総務官)

## 1. はじめに

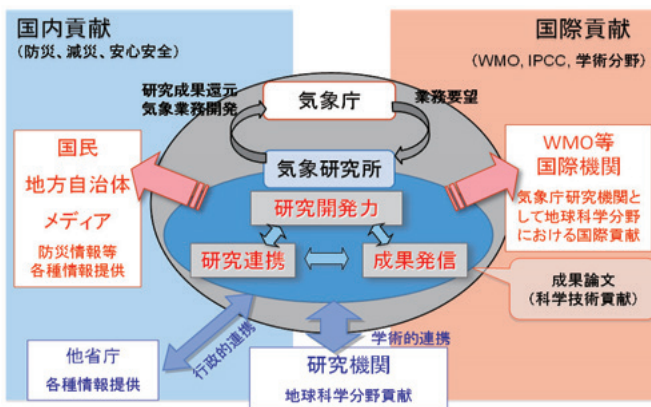
気象研究所は、気象庁に求められる諸課題に対して、科学的な知見に基づいて的確に答えられるよう、気象業務への実用的技術の提供を目指し、三つの研究分野(台風・集中豪雨等対策、地震・火山・津波対策及び気候変動・地球環境対策)の強化に関する研究を実施している。それらの研究を遂行するにあたり、5年間に達成すべき研究目標を見据えて、5年以内に業務化のめどをつける問題解決型の研究・技術開発として「重点研究課題」を設定している。また5年～10年後をめどとした実用化をめざす基盤的な研究・技術開発として「一般研究課題」を設定し、世界をリードする先進的な課題にも積極的に取り組んでいる。これらの研究の実施にあたり、基本方針として研究開発力を向上し、研究連携を促進させ、着実な成果発信につなげることに努めている(第1図参照)。

この成果発信の一つとして、毎年研究成果発表会を開催し、一般の方々に成果を広く知って頂き、また多様なご意見を頂く場の一つとしている。今年度は、気候変動研究に関するトピックを選んで、研究成果を紹介することになった。

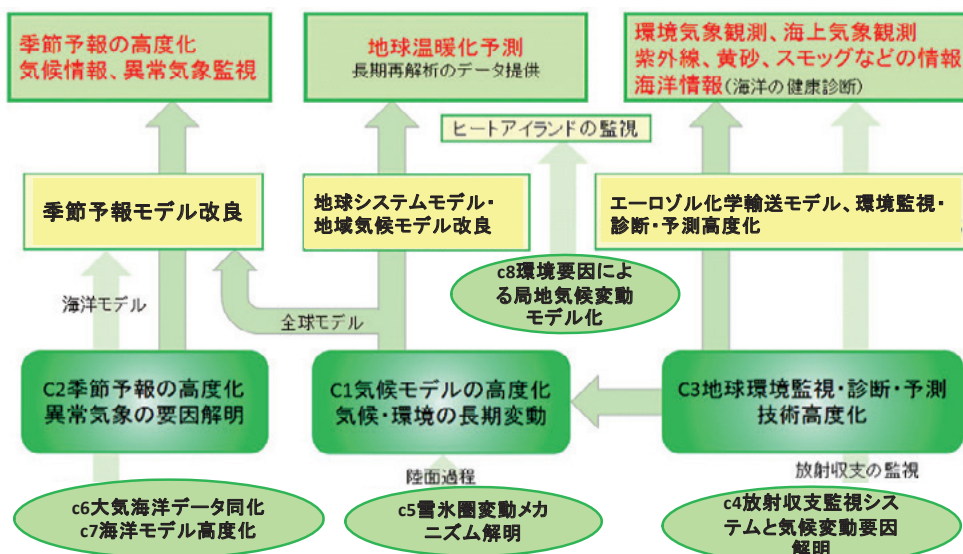
## 2. 気候変動研究

気候変動・地球環境研究分野では、重点研究3課題と一般研究5課題を推進している。重点研究では:C1 気候モデルの高度化と気候・環境の長期変動に関する研究、C2 季節予報の高度化と異常気象の要因解明に関する研究、C3 地球環境監視・診断・予測技術高度化に関する研究、の3課題が、また一般研究では:c4 放射収支の監視システムの高度化と気候変動要因解明に関する研究、c5 雪氷物理過程の観測とモデル化による雪氷圏変動メカニズムの解明、c6 大気海洋結合データ同化システムの開発に関する研究、c7 海洋モデルの高度化に関する研究、c8 環境要因による局地気候変動のモデル化に関する研究、の5課題が現在推進されている。それらの相関図を第2図に示す。

大気から海洋・陸面過程、熱帯から極域雪氷圏、境界面での局地的な現象から全球の気候モデルという、観測からモデルまで多種多様なテーマを上記8課題の中で研究している。本日の講演会では、それらの研究の中から、気候変動研究の全体像、温暖化、エルニーニョ、成層圏から伝搬する対流圏での気候変動への影響について、発表する。



第1図: 気象研究所での研究の基本方針



第2図: 気候変動・地球環境研究分野間と気象業務との連関